

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年八月度 入選句 (投稿総数千七百二十八句・小中生投句数九百七十八句)

特選 選者 遠藤 幹郎

見上げれば住吉燈台日のさかり 大垣市 安田 龍生(小六)

今年の夏は、記録的な暑さに連日見舞われました。水門川のほとり、むすびの地に立つ川燈台を見上げた作者は、折りからの夏の太陽が強く照りつける最も気温が上がる昼下りに居合わせたのですね。あの黒塗りの木造りで反りの効いた住吉燈台と、季語である「日の盛り」とが、よく響き合って、真夏の昼の暑さをうまく詠い上げています。

サッカーで負けて悔しい夏の空 大垣市 坂野 大貴(小六)

季語の「夏の空」は、ほかの季節にないまばゆさがあり、灼熱の太陽がふりそそぎます。作者は、この暑い夏空の下で、この日のサッカーの試合をめざして仲間と一生懸命、練習に励んで来たのでしよう。相手もまた、同じでしょう。試合に負けた無念さがよく伝わって来ます。この夏空を見上げて悔しさを晴らしている姿も目に浮かんで来ます。

かぶと虫こそごそうごくぬかのなか 大垣市 渡辺 朱音(四才)

この作者は、かぶと虫が大好きなのです。大事な大事な宝物なのでしょう。朝起きてから、夜眠りにつくまで時あるごとに「このかぶとくん」のところへ行って、じつと観察をしている様子が目に浮かんで来ます。「こそごそうごくぬかのなか」というところが、読む人の心をも動かします。このかぶとが作者の目の前に姿を現わしたら、また一句が……。

秀逸

ふうりんが風にさそわれ音ならず 大垣市 大倉 優舞(小四)

夏まつり両手がふさがるお買い物 大垣市 松崎 望来(小四)

あわつぶがでてはまた消えソーダ水 大垣市 廣瀬 菜々香(小六)

夏の日にはしようの人生学ぶぼく 大垣市 安江 太良(小六)

夏の日が背中にジリジリ照りつける 大垣市 伊東 萌(小六)

たくさんの勉強せおった夏休み 大垣市 山田 奈菜美(小六)

夏休みぼくの背中ではまっくろけ 大垣市 大塚 蒼真(五才)

アキアカネしずむゆうひとおなじいろ 愛知県名古屋市服部 美雪(中二)

ゆかた着ていつもとちがうぼくがいる 大垣市 柳詰 壮侍(四才)

ミニトマトあかいほっぺたかわいいな 大垣市 おがわ みゆ(小二)

入選

すいかわりそこそ今ださあたたけ 大垣市 宮川 結妃(小四)
 カブトムシリっぱなつのがおにあいだ 大垣市 村山 亮(小四)
 まどの外きれいにかがやく夏の星 大垣市 山村 真菜(小六)
 せみしぐれぼくの目覚めの合唱だ 大垣市 増田 郁人(小六)
 入道雲空に広がる白いわた 大垣市 津田 愛乃(小六)
 部屋の中光のロード夏の月 大垣市 安田 朱里(小六)
 梅雨ぐもり朝から母におこられた 大垣市 吉田 小雛(小六)
 先ぱいの汗かく姿あこがれる 大垣市 池田 未薫(小六)
 風りんとかすかに聞こえる川の音 大垣市 間宮 未久(小六)
 試合でて一本とられ夏おわる 大垣市 石原 馨(小六)

入選

ちちのひにびつくりばあていだいせいこう 大垣市 しみず のぶあき(小二)
 宿題が多いよ先生夏休み 大垣市 二宮 ひかる(小六)
 中山道めぐりてむすび水まんじゅう 関市 石原 ほし乃(中二)
 かぶとむしすいかだいすきぼくもすき 大垣市 とみだ りんや(小二)
 かぶとむしくわがたむしとたいけつだ 安八郡神戸町 高橋 紅華(小二)
 せんぷうきいづもおしごとおつかれね 安八郡神戸町 高橋 快聖(五才)
 よりそつてふたりなかよしさくらんぼ 大垣市 そんく ともき(小二)
 かたつむりおうちをせおいおひっこし 大垣市 のりたけ あいら(小二)
 みつけたよくろくてつよいかぶとむし 大垣市 北田 剛(五才)
 セミたちがはやしの中で大合唱 大垣市 黒見 双葉(小五)

選者吟

地下街を出てビル街の炎暑かな

幹 郎